

地域学校協働活動推進員交流会

筑豊教育事務所管内の地域学校協働活動推進員を対象に、実践発表や交流を通して、日ごろの取組状況や課題、その解決方法にむけた方策を検討することにより、推進員のネットワーク作りや実践意欲の向上を図り、担当する地域の地域学校協働活動の実践に活かすことができるようにする。

<実践発表> 「真崎小学校の地域学校協働活動推進員として」

川崎町立真崎小学校 地域学校協働活動推進員 中村 千恵 氏

「実践発表」では、真崎小学校の地域学校協働活動推進員として取り組まれた内容（主に学校運営協議会で行っている熟議、人材発掘や持続的な体制づくり）について発表していただきました。まず、学校運営協議会で行っている熟議では、地域と学校で目標やビジョンを具現化するために、以下の2点を中村氏が行っているということでした。

- ・ 地域学校協働活動の意義と効果、サポーターの心得を説明し、地域学校協働活動に対する認識の共有を図ること
- ・ 熟議のファシリテーターを務め、話し合い（学校と地域が子ども達のために何ができるか等）をサポートすること

また地域学校協働活動の人材発掘や持続的な体制づくりをするために、次のことを行っているということでした。

「人材発掘」

- ・ 個人的つながりによる声掛けや川崎町全体を対象にしたサポーター募集のチラシ作成・配付を行うこと
(町広報誌や行政区の回覧板等を通して)

「持続的な体制づくり」

- ・ 地域学校協働活動におけるサポーターの専門分野の把握（できる活動の一覧作成）と年間の活動計画を作成すること
- ・ ICTを用いてサポーターへ情報の一斉送信及び意見集約を行うこと
(活動グループ別、事業の支援内容別など、目的に応じて活用する)

これらの活動が、持続的な地域学校協働活動につながるということでした。推進員として学校の活動を支援することは、単なる学校のお手伝いではなく、子ども支援、家庭支援、そして地域づくりにつながるとおっしゃっていたのが印象的でした。

<交流> 「学ぼう つながろう 地域学校協働活動推進員」

「交流」では、まず、中村氏の実践発表をもとに、考えたことや気付いたこと等を参加者同士で話し合いました。そして、中村氏と参加者の間で「学校のニーズを把握する方法」や「講師の募集の仕方」等についての質疑応答が行われました。その後、参加者は、ワールドカフェ方式で交流し、「サポーター各々の得意分野等をリスト化していきたい」

「各市町村で推進員の在り方が違う」「退職校長会やPTAにもサポーターの要請をする」等、議論をする中で新しいアイデアや気づきが生み出されていました。参加者が、限られた時間の中で一歩でも前に進むためのヒントを得ようと、真剣に議論を交わす熱意溢れる姿が、とても印象的でした。

参加者は本交流会を通じて、地域学校協働活動を推進するためのアイデアやヒントを得て、自身の課題解決につなげるとともに、管内の本事業関係者同士のつながりを深め、今後の活動への実践意欲の向上を図ることができました。

【参加者アンケートから】（抜粋）

- 他の市町村も人材育成や後継者不足等の同じ悩みを抱えていることが分かった。
- アンケートで、サポーターの得意分野の情報を得る等、人材確保の幅を広げる方法が分かった。

